

此地東は四日程にして高臺に、五十餘日程にして張家口に、西は十一日程にして安西^{アシ}に、其他南は西蕃牧地に、北は沙漠地に、四通八達す、其道路皆可なりと云ふ。

第四節 途上の所感

地勢

以上蘭州、肅州間の地勢を總括し來れば、南西には祁連山脈^{イレン}高く天に聳へ、北東は萬里の長城低き山々を繙縫し、其形狹長にして帶の如く、道路は此の間を西北に走れり。一般に左右の山岳は、其中腹以上は峻峻山骨露はに、以下は緩斜巖石少なし。更に之を大別して云へば、蘭州、古浪間は全然谷地に屬し、古浪以西は次第に開濶しつゝ、遂に涼州の大平原を成す、東樂を過ぐれば益々荒漠と爲りて沙磧耕地相交り、更に黑泉子の西方に到りては、殆んど沙漠の狀況を成す。

尙ほ一步を進めて詳言すれば、蘭州以西は狹谷を成し、紅城堡を経て金羗河に沿ひ是より上昇して烏沙嶺に達す。金羗河の谷地は稍々開濶し、其の最も廣き所を平蕃附近とす。烏沙嶺、古浪間は、未だ依然峽谷たるも、一度古浪に到達すれば、地形始めて廣漠と爲りて、恰も隧道を出でし感あり。従うて古浪、永昌間は、西南の山尙